

留学生の日本語指導の概要:「日本語」を中心に

外国語学部国際関係学科 東 弘子

「日本語」クラスは近年、毎年9コマの開講をしてきている。夜間主に中国帰国者枠の学生の在籍があった間は、うち2～4コマが夜間主に開講されていたが、この4年ほどは当該学生が不在となったため、その枠を昼間主のクラスとして運用し、予算措置がなされていない短期受入の提携校との交換による「特別聴講学生」や「研究生」など、日本語が上級レベルではない留学生のために、そのときに在籍する学生に合わせてクラスアレンジをしている。

本年度後期の開講状況は下記の通りである。

<2009 年後期 日本語・日本事情時間割と内容およびレベル>

特＝特別聴講学生

	月	火	水	木	金
1	中道(日本語Ⅰa) 資料読み込み＋発表 技術 :学部生・上級			石川(日本語Ⅱa) 文章表現 :特・中上級	
2	中道(日本語Ⅱa) 読解／表現 :特・中上級	横内(日本語Ⅲb) 文法 :特・初中級		黒野(日本語Ⅰa) 論文作成 :学部生・上級	
3		横内(日本語Ⅲa) テーマ発表とプロジェクト ワーク :特・中上級		黒野 (日本語Ⅰb) 文法 :特・初中級	
4	山口(日本語Ⅰb) 語彙 :特・初中級			米勢(日本語Ⅱb) 会話 :特別聴講学生・ 初中級	中道 日本事情(社会) :特・中上級

学部留学生は、この3～4年、全学で5名前後と少人数であったが、2009年度は8名の入学者があつて11名を超えた。学部留学生が「日本語」を履修するのは、それぞれの所属学部の必修単位である全学科目の外国語としてである。(履修規程では「外国人留学生等」となっており、留学生の他、ある一定期間外国で教育を受けた帰国子女もこの中に含み運用している。)本年度の学部留学生の日本語の履修状況を見ると、前期は2・3年次生の履修もわずかながら見られたが、後期は1年生(月1限、木2限)のみであった。これは2・3年次生がそもそも少なく、日本語以外の外国語と組み合わせて卒業単位とできる学部の学生であったことに起因する。学生の日本語力は上級または超級であり、授業は、アカデミックプレゼンテーションやアカデミックライティングを意識したアクティビティ重視のシラバスとしている。学生数が少ないこともあり、きめ細かい指導が可能なことと学生の発表の機会を意識的に多く設定していることが特徴である。

一方、特別聴講学生など短期留学生は毎年10名程度であり、本年度後期は8名(韓国2名、中国1名、フランス2名、ドイツ3名)であった。日本語のレベルが初級から上級までまちまちであり、クラスマネジメントが難しい。学期のはじめに簡単なプレイスメントテストを行い、学生が週に4から6コマ程度日本語の授業が履修できるようクラス分けをして工夫しているが、クラスの

いくつかは日本語のレベルに差が生じてしまうことも事実である。学部留学生向けの授業を履修することができるほど、上級の短期留学生もいる。

大きな課題としてあげられるのは、大学全体が国際交流を推進する方向性にありながら、短期留学生に関する授業マネジメントを行う組織がないことである。日本語・日本事情に関する授業担当者は非常勤講師 5 名(本年度は専任教員の担当がないが通常は専任が 1 コマ担当している)であり、留学生の履修に関する事項について本務とする専任教員がいないため、日本語教育に関わる領域の 2 名の専任教員がシラバスとクラスの管理をし、日本語・日本事情のすべての授業(学部向け・短期留学生向け両方)について、担当者と専任教員とで、継続的に授業報告をメールで行い、日々、留学生の状況を確認しているといった現状である。

本年度は、毎回のメールによる授業報告の他に、12 月に日本語担当者によるミーティングを行った(高等言語教育研究所予算による)。次第は下記参考資料の通りである。学生の履修状況や、入国査証の都合により、学期途中で参加することになった研究生についての対応などについて話しあった。

以上、日本語教育部門の活動概要報告である。

<参考資料:ミーティング次第 > (その他、当日は授業担当教員から提出された授業資料に基づき会議)

愛知県立大学 日本語担当者ミーティング	2009/12/21(月)	E302(国際関係学科共同研究室)
参加教員:中道一世、石川美紀子、米勢治子、山口和代、東弘子(国際関係学科)		
◆ 授業に関する報告		
○ 担当の確認 (資料 1、2)		
○ 授業資料(敬称略) (資料 A~E + α)		
月 1 : 日本語 Ia : 中道 月 2 : 日本語 IIa : 中道 月 4 : 日本語 Ib : 山口 → A		
火 2 : 日本語 IIIb : 横内 → B 火 3 : 日本語 IIIa : 横内 → C 木 1 : 日本語 IIa : 石川 → D		
木 2 : 日本語 Ia : 黒野 → E 木 3 : 日本語 Ib : 黒野 木 4 : 日本語 IIb : 米勢		
○ 補足(欠席の教員から)		
資料 B ① 予習が前提 ② 音読 ③ 内容理解(随時質疑応答 → 文法、語彙、表現の説明 → 文作)		
④ テーマにちなんだ自由会話 (李ジョンさんの参加あり)		
資料 D ① テキスト ② ①のテーマで口頭レポート(ハンドアウトを用意)+ディスカッション		
資料 E ・使用テキスト『大学・大学院留学生の日本語4論文作成編』全 14 課		
・1コマで1課終了。		
・予習を前提とし、授業ではクイズ、練習、課題作文をやる。		
・課題作文については、翌週の授業でフィードバックを行う。		
(木 3 資料なし)・使用テキスト『どんなときどう使う日本語表現文型 200』		
・1コマで1課終了。		
・予習を前提とし、まず学生から質問を受ける。そのあとで当該課の内容を一通り確認		
・課の最後にある練習問題をやる。		
・時間が余ったら、読解をやる・		
(現在は『初級で読めるトピック 25』(みんなのにほんご)から適宜抜粋)		
◆ その他		
・学生の履修について(クラス分け、変更?) フェリックスさん、エルドンさん		
・研究雑誌「ことばの世界」(裏面、執筆要項)と高等言語教育研究所の組織について		
→ http://www.for.aichi-pu.ac.jp/gengoken/		